

令和6(2024)年度 学校経営計画

東京都立昭和高等学校長 大泉 昌明

第1 目指す学校

「生徒一人ひとりの夢や希望を大切にし、能力や適性を最大限伸ばし、自己実現及び社会貢献意識を組織的に図る学校」

本校は、教育目標に「自他の人権を重んじ、自律の精神に充ち、『求める心』『正しい心』『明るい心』をもった人間の育成」を掲げている。開校以来74年を迎える歴史の中で培われてきた『自治・自律の精神』の良き校風を継承しつつ、不易と流行を見極め、社会の変化や今日的課題にも敏感かつ適切に対応する教育活動を展開し、生徒一人ひとりの夢や希望を大切にし、能力や適性を最大限伸ばし、自己実現が図られるように、以下の5項目を柱とした「生徒のための学校」を目指す。

- (1) 生徒の実態に応じた指導で確かな学力を身に付け、希望の進路を実現させる学校
- (2) 自他の人権を尊重し、礼儀、思いやりと規範意識を育成することができる学校
- (3) 自ら学び、考え、正しく判断し、行動する力を育むことができる学校
- (4) 生徒一人ひとりが個性と能力を伸び伸びと発揮し、帰属意識と誇りのもてる学校
- (5) 民主国家及び社会の有為な形成者を育成することができる学校

スクールミッション

基礎的な知識・技能の習得を重視し、主体的な思考を伴う総合的で確かな学力を身に付けます。これを基盤とし、課題解決に向けて他者と協働できる実践力、物事を俯瞰できる力及び多様性を尊重できる心を培い、予測困難な時代にあっても勁く生き抜く人間力を育成します。

3つのスクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

各教科・科目及び総合的な探究の時間並びに学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動等の実践をとおして、課題解決に向けて他者と協働できる実践力、物事を俯瞰できる力及び多様性を尊重できる心を培い、予測困難な時代にあっても勁く生き抜く人間力を育成する。また、これらの教育実践をとおして、国公立大学並びに難関私立大学進学を含めた進路実現を組織的に推進する。

(2) カリキュラム・ポリシー

各教科・科目及び総合的な探究の時間においては、基礎的な知識・技能の習得を重視するとともに、思考力・判断力・表現力を育成し、主体的に学ぼうとする態度を伸長することをとおして、総合的で確かな学力を身に付けさせる。これに加え、学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動等においては、他者と積極的に交流することをとおして多様な思考・感性を受容する態度及び様々な価値観を理解する態度等を育成する。

(3) アドミッション・ポリシー

本校は、東京都教育委員会より「進学指導推進校」の指定を受け、生徒の高い進学希望の実現に向けてキャリア教育を重視した進路指導を行っている。「自治・自律」の精神を重んじる校風の下、人間として調和の取れた生徒の育成を目指している。

第2 中期的目標と方策

本校は進学校としてのみならず、人間として知育・徳育・体育の観点を踏まえた調和のとれた人材を育成する学校として、地域の人々の期待に応えてきた。その進学実績を質的・量的に更に向上発展させ、また、逞しく生きる力を備えた人間の育成を図るために、学習・進路・生活指導の充実を図り、部活動等を活性化させることにより「**全人教育・教養主義**」の推進を図ってきた。

令和5年度東京都教育委員会より「進学指導推進校」の指定継続を受け、「**多摩地域において、都立高校の進学トップ校の志望者に続くレベルの中学生に信頼され目標とされる学校となるべく、国公立大学や難関私立大学への進学実績を向上させる**」ミッションを**進学指導推進校の上位レベルでの達成を目標**とする。

令和元年度からの英語教育推進校指定に続き英語教育研究推進校の指定を受け、4技能の英語力の更なる向上を目指す。また、国際理解推進を踏まえた海外学校間交流推進校の指定を伴う海外語学研修等も活用し、教育目標の標語である「二兎を追い、二兎を得る。」高校として、組織的な進路実現に一層推進する。

今年度の柱(具体的取組)

- 1 高等学校学習指導要領に基づき、十分な知識・技能を身に付け思考力、判断力、表現力の能力を高め、主体的に多様な人々と協働して、深い学び(探究的な課題解決の取組)の実現に向け、豊かな創造性を備え持続可能な社会の作り手となることが期待される生徒の育成を目指す新たな教育課程の編成に取り組む。その際、個別最適な学びに向けたCYODの活用、教育ダッシュボードの円滑な導入等、組織的なDX推進を積極的に図る。【学習指導】
- 2 長期休業日の始期・終期の変更を活用して、授業時数の確保を図るとともに、教科主任会議・教科会を活用して組織的計画的な学習指導及び学習支援(講習計画、学習課題、模試対策と振り返り等)の充実を図るとともに、組織的にオンライン学習の一層の推進を図る。【学習指導】
- 3 習熟度別授業や少人数授業を積極的に導入し、生徒が主体的に取り組む「わかる授業」を展開して、進学実績の質的・量的な拡充を図る。自主学习支援事業・校内予備校等を積極的に活用し、3年間を見通した系統的なキャリア教育で組織的な進路指導体制を充実させ、生徒一人ひとりの夢や希望に応じた進路を実現する。【学習指導、キャリア教育】
- 4 「18歳成人」法制化に対応して自他の権利と義務、自由と責任について認識を深めさせるとともに、人権意識と社会における規範意識やモラルを育成する。【生活指導】
- 5 遅刻指導の見直し改善を図り基本的生活規律の定着を図り、生徒の情報端末機器活用における授業規律や家庭学習の習慣化を通じて基本的生活習慣を確立する。また、学校行事・部活動指導と学習指導を主体的に切り替えさせる取り組みを推進する。特に部活動においてはガイドラインを遵守するとともに、計画的な活動を重視するとともに、部活動指導員等の外部人材の積極的活用を図る。【生活指導、学習指導・特別活動】

- 6 学校保健計画を策定し、学校保健委員会にて情報交換することにより、生徒の健康保持と増進を図る。また、地域及び関係機関と連携して組織的な教育相談体制を確立し、生命を尊重し生きることの包括的支援として心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを推進し、家庭や関係機関等との連携を高め、教育相談機能の充実を図る。【心身の健康づくり、特別支援教育】
- 7 学校行事、生徒会活動や部活動の自主的・主体的な参加と質の高い効率的な活動を奨励し、海外語学研修等を活用した国際理解教育を推進するとともに、体力向上を図り心身ともに豊かな人間性を育成する。ボランティア活動などを奨励し、地域との交流を通じて思いやりの心や奉仕の精神を育成し、社会貢献意識の涵養と実践力を育成する防災教育を推進する。【特別活動・部活動】
- 8 教職員が学校内外の授業研究に参加し還元することで、学校の教育力を組織的に高め、安定化させる。【学習指導、学校経営】
- 9 ウェブページ等で積極的に教育活動を発信するとともに、授業公開、中学校との連携・交流、学校開放事業を通して、都民の期待に応えうる開かれた学校を実現する。【募集・広報活動、地域交流等】
- 10 学校運営連絡協議会の学校評価アンケート等を活用して、学校運営の改善を図る。【学校経営】
- 11 法令・規則等に基づいた透明性の高い適正な学校運営と、経営企画室の経営参画の機会向上により、今日的課題にも敏感、適切かつ迅速に対応する組織力の向上を図る。また、外部人材活用と業務(I T活用、会議効率と適正化、情報共有業務勤務の共有化を推進し「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、ライフ・ワーク・バランスを推進する。特に教職員アウトリーチ型相談事業を活用するなどし、教職員のメンタルヘルスについて十分配慮する。【学校経営】
- 12 セキュリティや節電に心がけ、安全で環境にやさしい施設管理を目指し、学習環境の整備・改善を図る。使い分けによるペーパーレス化による省エネの推進【学校経営】

第3 今年度の取組目標と方策

最重点目標 「選ばれる学校づくりの推進」

教育活動の目標と方策	重点目標と方策 数値目標
(1) 学習指導 ～ より高い学力を身に付けさせる組織的な教科指導の推進 ～ 【進学指導推進校、英語教育研究推進校】	
<p>① 観点別評価の導入等、新教育課程への円滑な移行に取り組むとともに都立学校統合型校務支援システムの活用等、TOKYO スマート・スクール・プロジェクトに基づく学習指導の円滑な導入に組織的に取り組む。</p> <p>② 年間指導計画における到達目標の明確化等、教科及び分掌が連携した組織的な学習指導(授業、定期考査)と学習支援(学習課題、長期休業・土曜日の講習補習、模試)を計画的に行う。</p>	<p>○<目標>大学入学共通テスト各教科・科目8割以上の得点率の割合15%</p> <p>○<目標>CEFR到達レベル 1 学年 A2 2 学年 B1</p>

③ 基礎・基本の学力の定着、応用力の増進を図るため、授業時数を確保し、授業規律を確立する。また、英語教育研究推進校事業を活用し、生徒の英語力の向上を図る。各教科、学校行事・部活動を通じて体力向上を図る。	
④ より高い進路目標の設定が可能な学力を身に付けるため、習熟度別授業や少人数授業を積極的に行うとともに、各教科においてストレッチゴールを設定することにより、学力伸長を図る。また、成績優良者に対する講習や成績不振者に対する補講を学期中に随時行う。	<目標>教科内・外の相互授業見学を年3回以上、教科会等による授業研究の実施
⑤ 生徒による授業評価・学校評価の活用、相互授業見学、指名制による授業研究、指導教諭の研究授業への参加などにより、教科会において組織的な授業改善による授業力の向上に努め、「わかる授業」を行う。生徒にわかる喜びを感得させ、自ら学ぶ意欲や姿勢を培う。	
⑥ 生徒の情報端末機器の活用と授業規律を確保する。授業の充実を図るとともに教員の授業力向上を図り、学習指導要領の改訂を視野に入れ、インプットを基盤にアウトプットによるより深く考え・表現させる等、生徒の能動的な学修参加を促し、学習への意欲・関心を高める。	
⑦ オンライン学習等を活用して予習・復習の重要性を理解させ、学習課題（宿題や週末課題など）や小テスト等の実施計画を作成し、家庭学習時間を確保するために、部活動との両立を図る指導を行い、保護者にも理解を求め、協力・連携を深める。	<目標>家庭学習時間 1・2学年 2時間 3学年 3時間以上
⑧ 長期休業期間、土曜日講習、補習、自習等を活用し、教科及び学年が組織的、計画的に生徒の学力向上を図る。	<目標>夏季・冬季・春季で110講座
⑨ 図書運営委員会を中心に推薦図書・課題図書の選定を行い、貸出率を向上させ、読書活動を推進するとともに、ビブリオバトル等を活用して生徒の言語活動を充実させる。	<目標>1・2学年 読書未読率20%以下、 図書貸出率45%以上
(2) キャリア教育（進路指導） ～ 3年間を見通した進学指導を推進し、より高い進路目標を実現 ～	
① 進路指導部が作成した3年間を見通した指導計画に基づき、各学年と連携・協力して1・2年次の「総合的な探究の時間」の指導計画及び体制を構築して、主体的に他者と協働して「探究課題」に取り組み進路意識の啓発と進路実現に向けた研究活動を深める。	○国公立大学現役合格 <目標>50名以上
② 進路指導部と学年の連携で、拡大学年会で定期考査結果と模試分析などによる学力到達度の共有。生徒・保護者対象の進路相談やキャリアガイダンスの実施。進路指導ソフトコンパスを面談に活用し、生徒との二者面談および全保護者との面談を実施する。入学時より生徒・保護者ともども進路意識を啓発し、安易な進路選択に流れず、より高い目標に挑戦する意識意欲を高める。	○大学入学共通テスト5教科7科目受験者数160名 ○早慶上理現役合格 <目標>40名以上
③ 年度当初に「進路ノート」を発行するとともに、「進路情報コーナー」の資料を充実させ、白馬ラウンジや進路相談室(面談スペース等)の施設設備等を更に有効な利用方法を検討し、環境整備を推進する。夏季休業日に地方国公立大学合同説明会を実施し、生徒、保護者の意識啓発と高大連携に取り組む。	○GMARCH現役合格 <目標>200名以上
④ 「大学入学共通テスト」などの高大接続システム改革の趣旨を踏まえ、新入試対策として、大学入学者選抜に係る新たな方式やルールの	

<p>共通理解を図り、進路指導部を中心に教科・学年と連携して組織的に準備に取り組み、新入試の指導体制を構築する。</p>	<p>○大学入学共通テスト出願者 <目標> 100%</p>
<p>⑤ 1・2学年は各学期1回、3学年は一学期までに全国模試を全員に受験させる。学年及び科目担当者が模試の結果分析を行なうとともに、特に、3学年では生徒一人ひとりの進路希望や模試等の学力を追跡、分析、整理し、出願検討会及び出願個別面談指導を行う。</p> <p>⑥ 大学入学共通テスト直前特別講座「特講」を設定し、進路希望に応じた組織的・計画的な学習指導・進路指導を教科と連携して実施する。</p>	<p><目標> 全国模試3教科偏差値58以上</p>
<p>(3) 生活指導 ～ 部活動等を奨励し、「自治・自律の精神」を身に付けさせる ～</p>	
<p>① 学校行事、生徒会活動(災害活動支援隊)や部活動、ボランティア活動などを積極的に進めるために、予算面、安全面、全教職員の協働体制など環境面を充実させるとともに、体罰・いじめ等の未然防止、多様性の理解に取り組みにより、生徒の全人格的成長を支援する。</p>	
<p>② 生活指導部と学年が連携した遅刻・身だしなみについて生徒が理解を深める指導を組織的に行き、遅刻の解消等、時間にけじめある学校生活を送らせる。</p>	
<p>③ 適正な部活動を推奨し、学習との切り替えによりメリハリをつけ、学校生活を有意義で楽しいものとし、豊かな人間性を育む。</p>	<p>○部活動参加率 <目標>100%</p>
<p>④ 学校行事・委員会活動等を活用し「自治・自律」の精神を育成する。また海外語学研修を通し国際理解の推進と学校全体の活性化を図る。</p>	<p>○関東大会・全国大会出場 部活動等の数</p>
<p>⑤ 生活指導指針に基づく指導によりセーフティ教室や講演会を通して、社会のルールやマナー(交通安全、薬物、SNSルール等)を遵守する心を育成して規範意識の向上を図る。</p>	<p><目標> 10部</p>
<p>(4) 健康・保健指導 ～ 心身の健康管理、環境衛生・美化～</p>	
<p>① 心身の健康指導を充実させるために、各学年及びスクールカウンセラーと連携し、特別支援教育コーディネーター(学年保健担当)を中心として、いじめ、不登校中途退学、心の健康等、障害理解等を含めY S W他関係機関と連携して組織的教育相談機能の充実を図り、人権尊重及び生命尊重の視点に立った教育を実践する。</p>	
<p>② 担任による生徒の個別面談、全保護者との面談を通じて、生活面・学習面・進路面で学校と家庭の連携機能を充実させる。</p>	
<p>③ 1・2学年拡大学年会、校内研修会等でカウンセラーと連携を図り、生徒ケース等の情報を共有し、教育相談機能の充実を図る。</p>	
<p>④ 年次ごとの学級編成を導入し、多くの教員と関わることで多種多様な人間関係づくりと偏りのない教育活動に取り組む。</p>	
<p>⑤ 保健指導による感染症等防止対策指導を徹底。美化委員会を中心に清掃指導の徹底と安全・環境整備による校内美化活動の充実を図る。</p>	
<p>⑥ 体育祭・球技大会などの体育行事を体育の授業と連携させるとともに、体力テスト及び生活・運動習慣等調査の結果をもとに、体力向上や生活習慣の改善など健康づくりの取り組みを推進する。</p>	

(5) 募集広報活動・地域交流等 ～ 学校情報の発信と選ばれる学校づくりの推進 ～	
<p>① 学校見学会、模擬授業、学校説明会、生徒の訪問などを学校全体として組織的、効果的に取り組み、募集活動のさらなる充実を図り、選ばれる学校づくりを推進する。</p> <p>② 学校ウェブサイトの充実と組織的な円滑な更新等による学校情報発信の充実を図りながら、保護者や地域の理解と協力を得る。</p> <p>③ 感染症対策に適切に配慮しながら、トライ&チャレンジ等での交流、近隣中学校への出前等体験授業、土曜授業日授業公開6回、公開講座、施設開放等を積極的に行い、地域に開かれ、温かく見守られ理解される学校を作る。</p>	<p>推進選抜応募倍率 3.5倍</p> <p>学力検査最終倍率 1.8倍</p>
(6) 学校経営・組織体制 ～ 堅実かつ即応する柔軟な学校組織づくり・スマートスクールへの対応～	
<p>① 研修活動の充実と日常業務の点検によるコンプライアンスの推進により、服務事故を起こさない組織づくりを推進する。</p> <p>② 職員室、教科準備室の整理整頓の励行とルールの設定による環境美化と情報セキュリティの強化を図る。</p> <p>③ 教職員の共通理解を促進するため、企画調整会議を各分掌組織間(部・学年会、教科主任会議、教科会等)の連絡調整に活用し、分掌連絡会の定例化による組織体制の円滑で効果的な学校運営を推進する。</p> <p>④ 教科主任会議等を活用して、学習指導要領の改訂による新教育課程検討、探究課題研究等、大学入試改革による新方式やルールに対応する進路指導の各方向性並びに組織的な指導體制を構築する。</p>	
<p>⑤ 学年だよりを全学年発行し、学校情報の発信促進に努め、生徒による授業評価、学校運営連絡協議会のアンケート調査結果等を活用して、学校の総合的な教育力を高め安定化させるために、一丸となる学校運営の改善を図る。</p> <p>⑥ 災害対策及び情報セキュリティ個人情報の組織的な進行管理を徹底し、学校危機管理体制の充実を図る。</p> <p>⑦ 学校行事の意義、目的、実施内容の検証や精選を進め、学校行事の組織的なPDCAに取り組み、質の高い教育課程を実施する。</p> <p>⑧ 閉庁日の設定、欠席遅刻連絡システム、電話自動応答装置及び外部人材の活用、授業時間内や放課後会議時間の確保などの会議の効率化、男性職員育休取得の推奨によるライフ・ワーク・バランスを推進し、働きがいのある職場づくりに取り組む。</p> <p>⑨ 通年、教職員の意識啓発を図り、服務規律の確保に取り組む。</p> <p>⑩ 予算編成指針に基づく執行を行うとともに、経営企画室との連携を強化し、ITの有効活用及び省エネとリサイクルに学校全体で取り組む。</p>	